

# 社会学部3学科共通科目 「社会共生実習」 登録受付開始!

自分のチカラを高めるチャンスは、ここにある。



## 2020年度 開講プロジェクトのご紹介



### 地域エンパワねっと

学生力×地域力=無限大∞  
大津市内2地域とのコラボを通じて、  
地域活性化を実地に学びます。  
テーマは地域住民とともに学生自身  
が見つげ出します。社会学部教育を  
特徴づけるプログラムです。



### 多文化共生の コミュニティ・デザイン

～定住外国人にとって  
住みやすい日本になるには?～

京都の在日コリアンの方々との交わり  
を中心に、多文化共生まちづくり  
の問題を具体的に捉え、その問題解決  
のための活動を企画・実施します。



### 大学は社会共生に 何ができるのか —文化財から“マネー”を創出する—

改正文化財保護法施行で観光におけ  
る文化財の活用促進が一気に加速し  
ます。滋賀の文化財というリソース  
を最大限活用し、マネーの創出法を  
学生・行政・NPOのコラボで考えま  
す。



### 伏見の食材を活かした 特産品づくりと地域連携

日本酒、トウガラシ、寒天など京都伏見ゆか  
りの食材を使い、農業者、食品流通業者、行  
政といった地域の人たちと連携しながら、伏  
見ならではの「一品」を創ります。地域資源  
の調査や商品開発の経験を通じて、食と結び  
つけた地域のアイデンティティや活性化につ  
いて学びます。



### いくつになっても、 出かけられる!

～高齢者を元気にする介護ツアー企画～

介護が必要な高齢者が楽しんでもら  
える日帰りツアーの企画から実施、  
評価を行います。基本的な介護技術  
を習得するとともに、高齢者をと  
りまく課題などについて考察します。



### 雑創の森プレイスクール プレイワーカー

冒険遊び場(プレイパーク)で子ども  
たちの遊びを支援し、上手に遊べる  
おとなになることを目指します。  
実際のプレイスクールで、実習体験  
を通して知識や技術を学びます。



2020年度プロジェクト紹介

各プロジェクト  
の詳細は  
こちらから!

活動の様子は  
こちらから!  
随時更新中♪



「社会共生実習」WEBサイト



# 事前登録方法

期 間：2020年4月2日(木)～4月6日(月)17:00まで <時間厳守>

手続方法：ポータルサイトのアンケート項目

『(編転入生用)2020年度「社会共生実習」事前登録について』

に必要事項を記入して回答する。

結果発表：受講が許可された場合、2020年4月7日(火)13:00からのWeb履修登録画面上で「確定」として表示されます。

# 留意事項

- 本実習は、土・日・祝日及び休業期間の実習を伴うことがあります。『2020年度「社会共生実習」プロジェクト紹介』(表面QRコードからアクセスできます)を熟読し、課外活動等を考慮の上、登録してください。
- 受講決定後は取り消しができません。ご注意ください。

## 受講者の声

大学生ならではの**実践的な活動**ができ、とても良い経験になります。社会学部に入ったら**受講しないともったいない!**ぜひ受講してください!!

**コミュニケーション能力**や**創造する力**が付き、

何より**主体的に動ける**ようになりました!

他学科の学生や学外の方と関わることができるので**視野が広がります!**

自分から行動することで、今まで気づかなかった発見があり、活動が自然と楽しくなります。ぜひこの実習で**自ら行動することの楽しさ**を学んでみてください。



- どのプロジェクトに登録するか悩んでいる...
- 他の課外活動やバイトと両立できるかな?
- 先輩達ってどんな活動してたのかな?
- もう少し、詳しい内容を知りたい!

**社会共生実習支援室**では、皆さんの履修相談をいつでも受け付けています。どんなに小さな疑問・相談事でもOK! 気軽にご来室ください。

【お問い合わせ先】

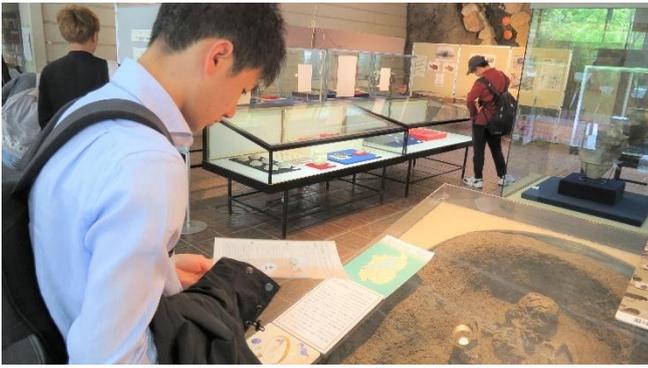
社会共生実習支援室 / 6-106

TEL: 077-544-7230

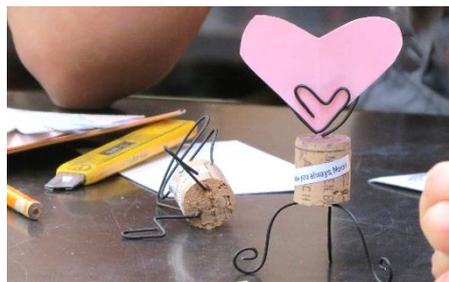
E-mail: co-ex@ad.ryukoku.ac.jp

月・水～金 9:00-17:00

火 10:45-17:00



## 2020 年度「社会共生実習」プロジェクト紹介



プロジェクト名	地域エンパワねっと (大津エンパワねっとコース：龍谷大学まちづくりコーディネーター課程)
担当者名	築地達郎、脇田健一
プロジェクトの概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会学部独自の地域連携型教育プログラム「大津エンパワねっとコース」の中心となるものです。</li> <li>・ <b>1年目前期の活動</b> 大学の地元である大津市で活動している方々（自治会、地域づくり団体、民生委員・児童委員、社会福祉協議会、子ども会、老人倶楽部、NPO、ボランティア、企業、行政など）からお話をうかがったり、活動に参加したりして、地域住民の皆さんと一緒に地域の「課題を発見」します。</li> <li>・ <b>1年目後期の活動</b> 発見した「課題の解決」に向けて、チームで企画を考えて実行し、その結果や成果を地域の皆さんと「共有」します。</li> <li>・ <b>2年目の活動</b> 1年目に築いた地域の皆さんとの信頼関係を基盤に、地域団体などの活動にメンバーとして参画し、地域課題の解決にさらに深く関わります。後輩への指導を通じて、学びのさらなる定着を目指します。</li> <li>・ <b>3年目の活動</b> 2年間かけて培った信頼関係とスキルを活かして、対象地域が抱えるより深いレベルの課題に対する解決方策を立案し、地域の皆さんをコーディネートしながら、実施します。後輩への指導を通じて、学びのさらなる定着と指導力の向上を目指します。</li> <li>・ <b>身につく力</b> 様々なフィールドワークやワークショップを通じて、コーディネート力、インタビュースキル、調査スキル、企画力、企画書作成力、広報力、プレゼンテーション力などが身につきます。</li> <li>・ <b>得られる資格</b> 本実習のほかに、「大学と地域をつなぐ特別講義Ⅰ・Ⅱ」を受講し、所定の対応科目の単位を修得することによって、「龍谷大学まちづくりコーディネーター」の認定を受けることができます。</li> <li>・</li> </ul>
募集学生数	上限 40 名、下限 1 名

活動場所	瀬田東：学区自治連合会、学区社協、文化振興会ほか 大津中央：学区自治連合会、学区社協、商店街組合ほか	
到達目標と 成績評価方法  <small>※実習科目ですので、1 セメ          スターにつき 60 時間以上          の実習（うち 40 時間は原          則として学外）を要します。</small>	1 年目前期	1 年目後期
	第 3・5・7 セメスター	第 4・6・8 セメスター
	〔到達目標〕 地域課題を発見する。 〔成績評価方法〕 ①平常点（60%） 全体授業や地域活動、チーム活動への主体的参加度や学びの深まりについて、各自が作成する「ポートフォリオ」を中心に評価する。 ②レポート（40%） 本実習を通しての学びについてまとめたレポートで評価する。	※第6セメスター生であっても、エンパワねっと受講が初めての学生は1年目とする。 〔到達目標〕 地域住民と協力して地域課題の解決方策を立案し、それを実践する。 〔成績評価方法〕 ①平常点（60%） 全体授業や地域活動、チーム活動への主体的参加度や学びの深まりについて、各自が作成する「ポートフォリオ」を中心に評価する。 ②レポート（40%） 本実習を通しての学びについてまとめたレポートで評価する。
	2 年目前期	2 年目後期
	第 5・7 セメスター	第 6・8 セメスター
	〔到達目標〕 地域団体などの活動にメンバーとして参画し、協働できるようになる。 〔成績評価方法〕 ①平常点（60%） 各自が作成する「ポートフォリオ」を中心に評価する。 ②レポート（40%） 本実習を通しての学びについてまとめたレポートで評価する。	〔到達目標〕 地域団体などの活動にメンバーとして参画し、その活動成果を地域にフィードバックできるようになる。 〔成績評価方法〕 ①平常点（60%） 各自が作成する「ポートフォリオ」を中心に評価する。 「ボランティアコーディネーション力検定」3 級などの関連する外部資格を取得した場合、プラスに評価する。 ②レポート（40%） 本実習を通しての学びについてまとめたレポートで評価する。

	3年目前期	3年目後期
	第7セメスター	第8セメスター
	<p>〔到達目標〕 既存の地域団体では解決できない課題を設定し、その解決方策を立案して、地域団体や地域住民の合意と協力を調達できるようになる。</p> <p>〔成績評価方法〕</p> <p>①平常点（60%） 各自が作成する「ポートフォリオ」を中心に評価する。</p> <p>②レポート（40%） 本実習を通しての学びについてまとめたレポートで評価する。</p>	<p>〔到達目標〕 前期において自ら設定した課題に対する解決方策を実施するために、地域団体や地域住民をコーディネートできるようになる。</p> <p>〔成績評価方法〕</p> <p>①平常点（60%） 各自が作成する「ポートフォリオ」を中心に評価する。 「ボランティアコーディネーション力検定」2級などの関連する外部資格を取得した場合、プラスに評価する。</p> <p>②レポート（40%） 本実習を通しての学びについてまとめたレポートで評価する。</p>
2020年度の活動スケジュール概要	<p><b>1年目の学生</b></p> <p>4月：オリエンテーション、まちあるき、地域デビュー 5～7月：チームに分かれて地域活動に参加し、情報収集や関係者へのインタビュー（⇒課題の発見へ） 7月下旬：前期報告会 9月～1月：チームごとに課題の解決に向けた企画の立案、準備、実施を行う（⇒課題の解決へ） 1月下旬：後期報告会（⇒地域との共有）</p> <p><b>2年目の学生</b></p> <p>1年目修了後（1～3月）：地域参画の交渉、準備 4月～7月：前期の地域参画活動 7月下旬：前期報告会 8月～1月：後期の地域参画活動 1月下旬：後期報告会</p> <p><b>3年目の学生</b></p> <p>2年目修了後（1～3月）：地域への提案の準備と実施への交渉 4月～7月：前期の地域活動 7月下旬：前期報告会 8月～1月：後期の地域活動 1月下旬：後期報告会</p>	

<p>担当者からの メッセージ (留意点など)</p>	<p>エンパワねっとは 13 年目を迎えます。 これまで地元地域の住民の皆さんが本気で先輩たちと向き合い、「大人への脱皮」を後押ししてくださいました。 粘り強く地域の皆さんと協働を積み重ねていこう——そういう気概をもった皆さんの参画を求めます。</p> <p>★【問い合わせ先】 脇田健一(2019 年度担当) MAIL/wakita@soc.ryukoku.ac.jp 川中大輔(2019 年度担当) MAIL/kawanaka@soc.ryukoku.ac.jp</p>
-------------------------------------	---

プロジェクト名	雑創の森プレイスクールプレイワーカー	
担当者名	久保和之	
プロジェクトの概要	<p>財団法人プレイスクール協会が運営する「雑創の森プレイスクール」において、子どもの自発的活動や支援をするプレイワーカーとして実習を行います。京都府京田辺市のプレイスクールに赴き、スクールスタッフのアシスタントとして子どもに対するプログラムを実施していきます。工作をして、その完成品を使って遊んだり、里山に分け入って探検ごっこなどをします。</p> <p>公益財団法人日本レクリエーション協会が認定する公認資格「レクリエーション・インストラクター」の課程科目の一つですので、他の科目と合わせて受講すれば、資格が取得できます。</p>	
募集学生数	上限 12 名、下限 1 名	
活動場所	<p>雑創の森プレイスクール「一般財団法人プレイスクール協会が運営する子どもたちの遊び場活動のひとつとして1977年に開設されました。プレイスクール協会では、子どもたちが生き生きと過ごせる遊び場環境創りに努めています。」</p> <p style="text-align: right;"><a href="http://www.playschool.jp/">http://www.playschool.jp/</a>より</p>	
到達目標と成績評価方法	1年目前期	1年目後期
	第3・5・7セメスター	第4・6・8セメスター
	プレイワーカーとしての基礎的素養を身に付けるために様々なプログラムを体験する。 活動状況、活動日誌、レポートを総合的に評価する。	プレイワーカーとして必要な知識と技術を身に付けるとともに、子供たちの現状を知る。 活動状況、活動日誌、レポートを総合的に評価する。
	2年目前期	2年目後期
※実習科目ですので、1セメスターにつき60時間以上の実習（うち40時間は原則として学外）を要します。	第5・7セメスター	第6・8セメスター
	学んできた知識と技術を活かし、プログラムの補助を行う。 活動状況、活動日誌、レポートを総合的に評価する。	学んできた知識と技術を活かし、プログラムの企画を立て、運営と評価を行う。 活動状況、活動日誌、レポートを総合的に評価する。

	3年目前期	3年目後期
	第7セメスター	第8セメスター
	<p>学んできた知識と技術を活かし、プログラムの運営を行う。 また、新人ワーカーへの助言と指導を行う。 活動状況、活動日誌、レポートを総合的に評価する。</p>	<p>学んできた知識と技術を活かし、プログラムの企画を立て、運営と評価を行い、新人ワーカー育成に努める。 活動状況、活動日誌、レポートを総合的に評価する。</p>
2020年度の活動スケジュール概要	<p><b>1年目の学生</b> オリエンテーション フィールド調査 プログラム参加 プログラム補助 技術習得 プレイワーカー実習</p> <p><b>2年目の学生</b> プログラム参加 プログラム補助 技術習得 プレイワーカー実習 プログラム企画 プログラム運営 夏季プログラムへの参画</p> <p><b>3年目の学生</b> プログラム企画 プログラム運営 プログラム評価</p>	
担当者からのメッセージ (留意点など)	<p>子どもと関わる活動をしていきます。子どもと一緒に遊べる心が必要です。子どもが苦手な人は、実習を通して苦手意識を克服していきましょう。様々な子どもや大人と接することにより、コミュニケーション能力が鍛えられます。山の中に行って体を動かすことが多いですが、工作や発明クラブなど、いくつかのコースがあるので、運動の苦手な人でも対応が可能です。</p> <p>★【問い合わせ先】 久保和之 MAIL/kazukubo@soc.ryukoku.ac.jp</p>	

プロジェクト名	大学は社会共生に何ができるのか ー文化財から”マネー”を創出するー	
担当者名	高田満彦、猪瀬優理	
プロジェクトの概要	文化財保護法が改正され、2019年4月から施行された。本法改正の背景には文化財の有効活用、特に観光における活用促進がある。滋賀県は日本遺産や文化財等有形無形の文化財が京都、奈良に次いで数多く有しながら、これらの地域に匹敵する経済効果を生み出していない。殊に大津は国際観光都市京都に隣接する位置にありながら観光業等において経済効果が低い。何が足りなく、どこが弱いのか、大津の持てるリソースと強みを観光資源として生かしながら、行政からの政策待ちではなく、民間企業やNPOと連携しながら、これらを貴重なリソースとして生かす方法、各組織の連携の在り方等を、先進地や当該の地域・大津を大学生の発想を生かして実際に歩き、体験を通して考えてみたい。	
募集学生数	上限 10名、下限 2名	
活動場所	調査・研究フィールドの中核を大津市とし、当市の有する文化財が存在する場所を研究の対象とする。当該地域の比較対象の地域として長浜市や近江八幡市等滋賀県内各地域、京都市内の各地域を対象として調査・研究を展開する。	
到達目標と 成績評価方法	1年目前期	1年目後期
	第3・5・7セメスター	第4・6・8セメスター
	大津の魅力を再考する！① 大津の有形・無形の文化財を調査し、その文化的価値と魅力について基礎的理解をする。	大津の魅力を再考する！② 大津の有形・無形の文化財を調査し、その活用について隣接する京都の文化財と対比しながら活用面からの問題点を考え、まとめる。
※実習科目ですので、1セメスターにつき60時間以上の実習（うち40時間は原則として学外）を要します。		

	2年目前期	2年目後期
	第5・7セメスター	第6・8セメスター
	<p>大津の文化財はマネーを生み出すか？①</p> <p>1年目の調査研究で得た知見をもって、今後の大津の文化財保護行政、観光開発の在り方について検討する。</p>	<p>大津の文化財はマネーを生み出すか？②</p> <p>これまでの調査研究で得た知見に基づいて今後の大津の文化財保護行政、観光開発の在り方についてまとめ、提案する。</p>
2020年度の活動スケジュール概要	<p><b>1年目の学生</b></p> <p>■前期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大津市内における調査対象文化財の検討</li> <li>・当該文化財に関する学修</li> </ul> <p>□前期、または夏季休業中</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光関連の専門機関、及び専門家等から調査対象文化財の現在の活用状況について聞き取りを行う。</li> </ul> <p>■後期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの知見をまとめ、1年目の成果を発表する。(成果のまとめと公表)</li> </ul> <p><b>2年目の学生</b></p> <p>■前期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度研究視座の決定</li> <li>・核となる文化財の発見と各自の研究視座に基づいた調査</li> </ul> <p>□前期、または夏季休業中</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財を総合的に活用する戦略、プラン等について専門機関、及び専門家等から聞き取りや現地調査を行う。</li> </ul> <p>■後期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの知見をまとめ、2年目の成果を発表する。(成果のまとめと公表)</li> </ul>	
担当者からのメッセージ(留意点など)	<p>「大学は社会共生に何ができるのか—文化財からマネーを創出する—」をテーマとして昨年度から調査・研究に取り組んでいます。文化財に関する知識の豊富さより、むしろ文化財という1つのリソースの価値に気づき、それをどのように活用してマネーを生み出していくかという柔軟な着想と行動が大切です。既成概念にとらわれず柔軟で豊かな発想で改積極的に課題解決に取り組む若者を募集します。</p>	

プロジェクト名	伏見の食材を活かした特産品づくりと地域連携	
担当者名	坂本 清彦	
プロジェクトの概要	京都伏見ゆかりの農林水産物や食材（トウガラシ、モモ、淡水魚、日本酒の酒かす等）を用い地域特産商品開発を目指す、地元関係者による現在進行中のプロジェクトに参画する。農福連携事業を通じて障がい者を支援する社会福祉法人（ここは調整中）など、多様な関係者とも連携する同プロジェクトに参画し、農林水産業や食が多様な地域関係者となつながら、地域アイデンティティ構築や活性化に貢献できること、またそれに伴う様々な課題があることを商品開発の現地経験を通じて学ぶ。	
募集学生数	上限 10名、 下限 3名	
活動場所	（一社）日本食育者協会（京都市伏見区納屋町 131） 食を喜び、食を学び、知恵と文化を伝える食育者を支援し、地域、食文化、一次産業の発展を目指す一般社団法人。主宰者は地元商店街の歴史のある食品小売業者で、地元内外の一次・食品産業関係者に幅広いつながりを持ち、上記プロジェクトをすでに運営中。	
到達目標と 成績評価方法	1 年目前期	1 年目後期
	第 3・5・7 セメスター	第 4・6・8 セメスター
	学生でチームを編成し、商品開発の対象とする食材を選択し、協力して基礎調査立案、実施、結果を報告できる。チームへの貢献度、分担した役割の完遂度を評価する。	学生チームを編成し、前期に基礎情報を集めた食材を用い、商品を実際に開発、お披露目する。開発チームへの貢献度、分担した役割の完遂度を評価する。
※実習科目ですので、1 セメスターにつき 60 時間以上の実習（うち 40 時間は原則として学外）を要します。		

	2年目前期	2年目後期
	第5・7セメスター	第6・8セメスター
	<p>学生でチームを編成し、商品開発の対象とする食材を選択し、協力して基礎調査立案、実施、結果を報告できる。チームへの貢献度、分担した役割の完遂度を評価する。2年目以降の参加者は、チームリーダーとしての役割も評価する。</p>	<p>学生チームを編成し、前期に基礎情報を集めた食材を用い、商品を実際に開発、お披露目する。開発チームへの貢献度、分担した役割の完遂度を評価する。2年目以降の参加者は、チームリーダーとしての役割も評価する。</p>
<p>2020年度の活動スケジュール概要</p>	<p><b>1年目の学生</b>  実習現場において農業者、行政、食品流通業者さんなどプロジェクトの協力者の声を聞き、地域の特性を考えて調査や特産品の立案、試作を行う。</p> <p><b>2年目の学生</b>  実習現場において農業者、行政、食品流通業者さんなどプロジェクトの協力者の声を聞き、地域の特性を考えて調査や特産品の立案、試作を行うとともに、1年目の学生の実習学修をリードするスキルを学ぶ。</p>	
<p>担当者からのメッセージ (留意点など)</p>	<p>農業や食をテーマにした実習ですが、それらの分野に知識がなくてもかまいません。現場に出て、地域の人たちの声を聞き、楽しみながら何かを作り出すプロセスを学んでください。指示を待つのではなく、積極的な姿勢を期待します。</p> <p>★【問い合わせ先】  坂本清彦 MAIL/<a href="mailto:kiyohiko.sakamoto@gmail.com">kiyohiko.sakamoto@gmail.com</a>  LINE ID/runkiyorun</p>	

プロジェクト名	いくつになっても、出かけられる！ ～高齢者を元気にする介護ツアー企画～
担当者名	高松 智画
プロジェクトの概要	<p>介護が必要な高齢者が楽しんでもらえる日帰りツアーの企画から実施、評価を行います。そのために、基本的な介護技術を習得するとともに、高齢者とのコミュニケーションなどを通じて、道路、交通、生活環境に関する問題や課題、日常生活上の困りごとなどについて考察します。それらをふまえて旅行プランを作成しますが、下見やプレゼンでのフィードバックを重ねて練り上げていきます。</p> <p>また、参加者募集も学生自ら行います。参加者とは旅行実施までに面談を行い、当日に備えます。ツアー終了後は、プレゼン等によるふりかえりを行うとともに、ツアー参加者に贈呈する記念品を作成します。</p>
募集学生数	上限 15 名、下限 5 名
活動場所	<p>龍谷大学瀬田学舎 6 号館第 1・第 2 実習室          大津市を中心とする観光地          龍谷大学周辺の高齢者福祉施設          ツアー参加希望者の自宅 等</p>

	1年目前期	1年目後期
	第3・5・7セメスター	第4・6・8セメスター
<p>到達目標と 成績評価方法</p> <p>※実習科目ですので、1セメスターにつき60時間以上の実習（うち40時間は原則として学外）を要します。</p>	<p>到達目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の生活課題を理解し、喜ばれる介護ツアーが企画できるようになる。</li> </ul> <p>内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の身体的・精神的理解のための学習</li> <li>・バリアフリー、介護保険に関する学習</li> <li>・高齢者とのコミュニケーション（日常生活での困りごと等の聞き取り）</li> <li>・ツアーの目的、プランのポイント、実施例等についての学習</li> <li>・車いすの操作や動作の介護等の実習</li> <li>・グループに分かれてツアープラン（行先、行程）の作成</li> <li>・作成したプランの下見とプランの修正</li> <li>・ツアープランプレゼンとツアープランへのフィードバック</li> <li>・ツアープランの決定とフライヤーの作成</li> <li>・広報・募集（夏季休暇中）</li> </ul> <p>成果評価方法）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション能力、バリアフリー調査、レポートを総合的に評価する。</li> </ul>	<p>到達目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護ツアーを実施し、その意義と課題についてプレゼンテーションができるようになる。</li> </ul> <p>内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の募集</li> <li>・参加者との面談によるツアー行程についての打ち合わせ（介護内容、注意事項等の確認）</li> <li>・連携が必要な専門職との情報共有</li> <li>・ツアーの実施</li> <li>・ツアーのふりかえり（成果と問題点、今後の課題についての考察しレポートを作成）</li> <li>・パネル展示</li> <li>・参加者への記念品を作成し届ける</li> </ul> <p>成果評価方法）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション能力、社会課題への理解度、プレゼンテーション力により総合的に評価する。</li> </ul>
<p>2020年度の 活動スケジュール 概要</p>	<p><u>1年目の学生</u></p> <p>前期）高齢者理解とツアー企画</p> <p>4月 ツアープラン作成に関する基礎的知識の修得（講義と実習）</p> <p>5月 ツアープランの作成（下見などグループ活動）</p> <p>6月 ツアープランのプレゼンと修正を経て、決定</p> <p>7月 広報・募集に関する学習と実習</p> <p>8月 参加者の募集</p>	

	<p>後期) ツアー実施と評価</p> <p>9月 参加者募集、面談による打ち合わせ</p> <p>10月 ツアー実施とふりかえり(グループ学習)</p> <p>11月 ツアーのふりかえり(レポート、ポスターの作成)</p> <p>12月 パネル展示、参加者への記念品の作成</p> <p>1月 参加者への記念品の贈呈、全体の総括(講義とグループ学習)</p>
<p>担当者からの メッセージ (留意点など)</p>	<p>ツアーの企画・実施、高齢者の仲間づくりやコミュニケーションに興味、関心のある人たちに是非参加してもらいたいと思います。そして、社会、CM、現代福祉、それぞれの学科の強みを生かした協力・協働ができればと考えています。</p>

プロジェクト名	多文化共生のコミュニティ・デザイン ～定住外国人にとって住みやすい日本になるには?～	
担当者名	川中大輔	
プロジェクトの概要	日本も既に多くの外国人が定住し、多文化社会になっている。ところが、日本は定住外国人にとって住みやすい社会なのかと言えば、そうではない。「言葉の壁・制度の壁・意識の壁」という3つの壁が立ちはだかって、生活の様々な場面で苦勞をすることとなる。そこで、本プロジェクトでは京都の在日コリアンの方々との交わりを中心に、多文化共生まちづくりの問題を具体的に捉えていき、その問題解決のための活動を企画・実践する。ダイバーシティの向上が、新たな社会をつくりだすチカラの増大につながるための方向性を一緒に考えていきたい。	
募集学生数	上限 10 名、下限 3 名	
活動場所	主に京都市南区の東九条地区を活動場所とします。 その他、神戸や大阪などでのフィールドワークも実施します。	
到達目標と 成績評価方法	1 年目前期	1 年目後期
	第 3・5・7 セメスター	第 4・6・8 セメスター
	<ul style="list-style-type: none"> <li>在日コリアンの方々の生活理解を中心に多文化共生社会に向けての現代的課題が概観できるようになる。</li> <li>その評価としては、活動日誌での記述の具体性と、期末レポートの記述の明瞭さで判断する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多文化共生まちづくりというテーマのもと、自分たちの「強み」を活かす形でのプロジェクト活動を実践できるようになる。</li> <li>その評価としては、プロジェクトの企画書と当日のパフォーマンスにおけるニーズ把握の度合い、手法の適切さや独自性で判断する。</li> </ul>
※実習科目ですので、1 セメスターにつき 60 時間以上の実習 (うち 40 時間は原則として学外) を要します。		

	2年目前期	2年目後期
	第5・7セメスター	第6・8セメスター
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニューカマーの定住外国人への理解も含めて、多文化共生社会の実現に向けての政策的な課題が概観できるようになる。</li> <li>・その評価としては、活動日誌での記述の具体性と、期末レポートの記述の明瞭さで判断する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の生活課題をとりあげて、多文化共生社会実現のための政策提言をまとめられるようになり、そのことを社会発信できるようになる。</li> <li>・その評価としては、政策提言書の的確さと広報活動における発信力の強さで判断する。</li> </ul>
	3年目前期	3年目後期
	第7セメスター	第8セメスター
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多文化共生まちづくりをめぐる各自の問題意識に則って、学術的にも意義のあるリサーチクエスチョンを立てて、現場と協働する形でのアクションリサーチのプランをつくれるようになる。</li> <li>・その評価としては、研究計画書の独自性と明瞭さ、実現性で判断する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場と連携する形でのアクションリサーチを実行し、その結果を地域の方々にとって意味あるものとして発信できるようになる。</li> <li>・その評価としては、レポートにおける分析の明晰さと社会還元の度合いの高さで判断する。</li> </ul>
2020年度の活動スケジュール概要	<b>1年目の学生</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多文化共生の課題に関する基礎的な学習</li> <li>・東九条地区や大阪、神戸でのフィールドワーク</li> <li>・東九条地区でのフィールドワーク／地域活動</li> <li>・問題解決プロジェクトの企画／実践</li> <li>・多文化共生の課題に関する発展的な学習</li> </ul>	
	<b>2年目の学生</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多文化共生分野の政策動向に関する基礎的な学習</li> <li>・京都、大阪、神戸でのフィールドワーク</li> <li>・政策提言案の構想と試行実践、社会発信</li> </ul>	
	<b>3年目の学生</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の問題意識に基づくアクションリサーチの実施</li> </ul>	

<p>担当者からの メッセージ (留意点など)</p>	<p>「違いを認め合おう」というメッセージを否定する人は少ないでしょう。しかし、「違い」の中には「守らないといけないもの（尊重すべきもの）」もあれば、「あってはならないもの（解消すべきもの）」もあります。尊重／解消すべき「違い」は何か。また、解消にあたって誰がどのように変化していくべきか。これらの問いに対して、「現場」での当事者の方々との対話と協働を通じて考えていきましょう。</p> <p>★【問い合わせ先】 川中大輔 MAIL/kawanaka@soc.ryukoku.ac.jp</p>
-------------------------------------	---